

湯梨浜中学校だより

『礼輪笑活(れいわしょうかつ)』

湯梨浜町立湯梨浜中学校

校長 梅津 寿文
令和元年6月12日

「涙は心の汗だ！」県総体予選が終わる

先週の6日(木)～8日(土)まで県総体予選会が行われ、昨日にお配りした試合結果のとおりでした。2日目の金曜日は雨も降り、延期になったり時間を遅らせて始めた競技もあって、選手や役員も大変な大会となり本当にお疲れさまでした。どの部も県総体出場権をかけて大熱戦を演じ、「もう少し！あと一歩！」という悔しい思いと、「ほんとうに良くやったな～」と健闘を讃える思いとが入り交じってとっても複雑な思いでした。

チーム・個人として違いはあるとは思いますが、特にこの大会はどのチーム・選手も「勝ちたい、県総体に出たい」という思いだったと思います。？十年前のテレビドラマのセリフかその主題歌の歌詞だったか「涙は心の汗だ」という一節があり、いまだにことあるごとに思い出しますが、選手の皆さんは「試合が終わった時、どんなことを思いましたか？」、勝っても負けても「いい涙が流れましたか？」、今までの頑張り度によってうれし涙・悔し涙の量とそのしょっぱさが違うのかもしれませんが。日ごろの練習にどれだけ真剣に打ち込むことができたのか。本番で勝負できる精神面や技術面をどこまで高められたか。そのための食生活や睡眠・体の手入れはどうだったか。チームワークはどうだったか。等々考えればきりがありません。人は様々、周りから見ていて「たいして努力したように見えなくても私は頑張った。一生懸命に努力した」と言う人もいれば、「どうしてそこまでやるの？」というくらい心身ともにボロボロになるくらいまで取り組んでいても、「まだまだ努力が足りない」と言う人もいます。それはそれぞれの『当たり前』のレベルの違い・『目標設定の違い』からくるのでしょうか。

それにしてもこの度の「湯梨浜中学校の初の公式戦」の結果は、全体的に「もう一歩」「にがい船出」となりました。選手たちの頑張りや一生懸命に応援する姿、保護者や地域の方々からの熱心な応援もありながら、「ここ！」という時にもう一ツカが出し切れなかったり、チームの歯車がかみ合わなかったように感じます。この原因の一つとして、年度末～年度初めの部活動の練習不足があげられ、生徒の皆さんには本年度に申し訳なく思います。今さらながら、この約一ヶ月間の大切さを痛感しているところですが、中学校「統合」の片付けや準備等に関わる膨大な仕事量に対して、保護者や地域ボランティアの方々、そして先生方の献身的な仕事を思い返すと仕方のないことだったようにも思います。

とにかく試合結果だけでなく、今までの取り組みをしっかりと振り返り、次の県総体やこれからの学校生活に活かしてこそ「部活動をとおしてさまざまな力をつける」ことになると思います。

時には休憩も必要ですのでゆっくり休んでリフレッシュしたら、次の目標に向けて歩み始めてください。今回で部活動を引退した3年生は「進路の実現」という最大の目標に向けて、2年生・1年生はさっそく次の大会、新人戦に向けて新たなスタートを切りましょう。

「こんにちわ！・ありがとう！」の大切さ

昨日の町内一斉公開には多くの来校者があり、民生児童委員の方々を含めて約230名程度の方が訪れてくださり、大変にぎやかでありがたいことでした。民生児童委員の方々には、新中学校の現状と課題をお伝えした後に、これからご協力いただけること等のご助言をいただきました。

また、毎日のように通学路に立ってご支援いただいている男性の方から、最近は横断歩道ではきちんと自転車を降りて、自分から先に挨拶をしてくれる生徒たちが増えてうれしいと知らせてくださいました。さらには、挨拶だけでなく「ありがとうございました」ときちんとお礼を言う生徒までいるようで、本当に喜んでおられました。他にも多くの方々から地域でも登校時の挨拶がよくなってきたことをたくさん褒めていただきました。3年生のある学級でも取り組まれている「ありがとう」の持つ力の大きさを感じました。やはり挨拶・お礼や感謝の言葉には人の心を温かくする「魔法の力」があるようです。ただし、「下校時に道路いっぱいに広がって、地域の方々に迷惑をかけている生徒もいます」と、横断歩道や信号機周辺だけでなく、狭くて危険な箇所もあるので、登下校には十分気をつけてください。

「サマープラスでハッハッ」

サマープラスコンサートが先週の日曜日に倉吉未来中心で行われ、吹奏楽部が熱演しました。演奏曲は「世界はあなたに笑いかけている」「やってみよう(ピクニック)」の2曲で、5人のダンサーの踊りに手拍子もたくさん起こっていて、とても好評でした。

